

高津発

日本改革!

ほりぞえ健ニュース

2003年5月号 No.1

民主党 ほりぞえ健事務所

(6月9日まで。6月10日から
裏面の場所に移転致します。)

〒213-0033

川崎市高津区下作延558-2-409

電話 044-877-6317 FAX 044-877-4807

<http://www.horizoe.com>

E-mail: horiken@horizoe.com

'03統一地方選を振り返って

～事務局インタビュー

川崎市議会議員 ほりぞえ健

(事務局) 先月、高津区から川崎市議会議員に選出されました。今のお気持ちはいかがですか?

(堀添) 自分でも月並みだとは思いますが、有権者の方の期待を強く感じています。私は5,435票の得票を得ました。5,435という数字は文字で見ると単なる4桁の数字です。しかし実際にご覧になられるとわかりますが、5,435枚の投票用紙は机の上に山ができるくらいのボリュームなのです。これほど多くの有権者が投票所に足を運び、1枚1枚の投票用紙に私の名前を記入してくださった、ということの重みは決して忘れてはいけないと思います。また、それとともに、川崎市民が納めた税金で議員活動を行うのですから、私に投票されなかった方も含めすべての川崎市民の立場に立った政治の実現に全力を尽くして参ります。

(事務局) 「有権者の期待を感じられた」とのことですが、具体的にはどんなことでしょうか。

(堀添) 選挙期間中は本当に多くの方々とお話しをさせていただきました。保育をはじめとする福祉や教育、まちづくりといった具体的な問題だけでなく、川崎市としての運営のあり方等、実に様々なことについて意見交換を致しました。それらを通じて強く感じたのは3つあります。

まずは現在の政治のあり方に対する不信感・閉塞感です。私は民主党から出馬しましたが、駅頭や街中で必ず言われたのが「民主党がんばれ!」というご声援です。といっても、これは文字通りに受け取ると大きな誤りで、「現在の政治を変えるためには、まずは一度政権交代を実現しなければならない。民主党も問題は多いが、今のところ政権交代が一番近いのは民主党だから、とにか

くがんばれ!」ということだと思います。政権交代は直接的には国政の課題ですが、地方政治の改革抜きに政権交代の実現はなかなか難しいのも事実です。今回、高津区選出の松沢しげふみ代議士が神奈川県知事に立候補され、投票日が一緒だったということも大きく影響していますが、前回と比較して民主党系候補者の総得票率が3割以上も伸びているのは、現在の政治のあり方に対する拒否感の反映でもあると思います。

2点目は、主権者に対する情報提供と交流の問題です。多くの方から言われたのは「議員は一度当選すると、あとは何をしているのか、日々の活動がみえてこない」という点でした。私自身も以前は同じ気持ちを抱いていましたが、実際には皆さんいろいろとやられていらっしゃる。にもかかわらず、多くの方から同様の指摘を受けたということは、やはり主権者と議員、政治家との間で新しい関係を築いていかなければならない、ということではないかと思えます。私自身は選挙戦の中で「徹底的な情報公開」と「政策立案段階からの主権者の参画」を訴えて参りましたが、試行錯誤を含めて着実に進めていこうと考えています。

3点目は、具体的な政策の部分が争点になってきていると感じました。松沢県知事の掲げられたマニフェスト、政策綱領が典型的な事例であり、マスメディアによる調査結果でも、「政策」を重視する有権者が非常に増えてきています。地方自治体における議員は、首長、行政との間におけるチェックアンドバランスが主要な役割であり、なかなか直接的に施策を実現できるわけではありませんが、しかしどういう方向に地方自治体を持っていこうとしているのか、



- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブニーレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 民主党神奈川県第18区総支部副幹事長
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女(中学1年)の3人家族

また重要な課題に関する政策の内容が問われてきていると思います。私自身は住民の立場に立った行財政改革を推進するつもりですが、具体的に補助金制度や入札制度の改革についてお話しをさせていただくと、有権者からも一歩突っ込んだ反応が得られたように思います。今までのように、いわばスローガンのレベルにとどまるのではなく、具体的な政策の中身についても関心が寄せられてきているということは、今後のまちづくりを進めるにあたって、非常に重要なポイントではないでしょうか。(事務局) どうもありがとうございます。(5月6日付)

ほりぞえ健 4つの政策と3つの約束

【4つの政策】

●徹底的な行政改革の推進

本来行政が行うべき仕事を明確にし、最適な業務効率を実現するために、徹底的な行政改革を実現した上で、納税者の立場に立った、大胆な行政運営を実現します。

●高津区を川崎市行政の中心に

地理的・人口的に川崎市の中心に位置する高津区へ市役所を移転することで、行政改革を推進するとともに、川崎市の一体化を高め効率的な行政運営を実現します。

●教育・福祉・環境重視のまちづくり

市民が安心して暮らせるまちづくりを推進するため、教育・福祉・環境を重視した行政運営を実現します。とくに、子育て世代やお年寄りに対する支援を重視致します。

●地域産業の活性化支援

魅力あるまちづくりに欠かすことのできない地域産業の活性化を支援します。とくに、『やる気』のある商店、企業、経営者に対して重点的に行います。

【3つの約束】

●住民の立場に立ちます。

地方自治体は、首長（市長）と議会との間のチェックアンドバランスが基本です。地方自治体の中で強大な行政権を持つ首長に対し、住民の立場にたつて行政をチェックします。

●住民参画を推進します。

地方自治体は、住民の身近なところで政治が行われますので、可能な限り主権者である地域住民の参画を推進します。住民の参画にあたっては、単に「意見を聞く」のではなく、地域住民が政策立案段階から関与できる仕組みを重視します。

●情報公開を推進します。

地方自治体に関する情報はすべて公開します。とくに行政が最終的に意思決定する前の、過程に関する情報の公開を重視します。

選挙会計収支報告

(未確定分を含む)

【収入】	3,269,073円	【支出】	3,269,073円
○自己後援会からの資金	1,533,465円	○人件費	660,347円
○寄付金		○家屋費	661,025円
政党支部からの寄付金	600,000円	○通信費	217,311円
個人からの寄付金	354,000円	○交通費	47,293円
団体からの寄付金	0円	○印刷費	935,013円
○公費助成金	781,608円	○広告費	473,630円
		○文具費	38,526円
		○食糧費	104,265円
		○宿泊費	14,700円
		○雑費	116,963円

「私はこう思う」～選挙戦を戦って、感想と抱負

選挙の感想

S. K (ジャズベーシスト)

高津区北見方に越してきて3年、私個人は、今回の川崎市議会選挙のほりぞえ健氏応援を通して、はじめて実感的に地方政治に関わった。はじめて溝口駅前の選挙事務所に伺った時の印象は、こんなに人手がなくていいのだろうか、だった。また氏の人柄としては、実直。氏の「しがらみのない」立場、政治姿勢（既得権者の代表ではない、という立場、政治姿勢）を理解できた時、市政の抜本的改革のために働いてくれる人であると確信できたし、市議会に送り込みたいというモチベーションが増したと思う。

主の仕事としては、公示前は郵便物の作成、チラシの配付など、公示後は有権者への電話かけ。しかし電話かけひとつとっても私達のかまえ方はちがう。従来の選挙の常道であれば、候補者は事実上新人だから、とにかく「ほりぞえ健」の名前を覚えてもらう。私達はそれだけにとどまらず、有権者（私達）と有権者（電話を受け取った人）が、候補者の政策について論議をする。こういう機会に地方自治の本来のあるべき姿の再生を始めたかった。候補者の当選はうれしかったが、スタートラインだ。地方政治の再生を通じて、政権交代の基盤を創っていくことが必要だ。

選挙に参加して

M. O (主婦)

ほんの少し選挙のお手伝いをしましたが、とてもおもしろい経験でした。候補者を支える人々の思いやその暖かさ、選挙戦での苦労、またちょっと不思議なとり決めなど、様々なものを垣間見ることができました。

候補者の市政への思い、それは個人の考えを反映させるのではなく、私たち市民の代表としてよりよい市政への窓口であるということに改めて考えました。私たち有権者は、その一票をどう託すかよく考える義務があります。ただ票を集めて当選し議席がとれればいいのではなく、私たちの生活基盤である市政を、本当によりよい方向へ導く私たちの代表として議員を選ぶことを確認しました。

議会への一步を踏み出した今が本当のスタートです。私たちの夢や希望を信頼できる議員へ託すと共にまた、一緒に考え歩むことが、市民の手による市政だと思えます。一票を託した議員と共に考え自分たちで市政を作る、そんな「私たちが作った川崎」と胸をはれる日が来るのが楽しみです。そんなふうに夢が膨らむ選挙戦でした。

「政治文化」を入れ替えようとの意志があれば、有権者に伝わる！

M. K (特許事務所勤務)

「松沢さんは知っているが、堀添は何者か」というところから、選挙戦は始まった。電話での反応は、「堀添事務所ですが…」と聞くと不審感でトーンが落ちる。「松沢知事候補と共に…」と切り出すと「ああ松沢さんね」と安心トーンに上がる。4年前の得票数は1700票余りでしかない。

私達は、「政治文化」を入れ替えることに挑戦する候補者「ほりぞえ健」として、どう訴えれば憶えてもらえるかを試行錯誤しながら中盤戦に入った。全員参加の選対会議で毎日意見を出し合いながら、堀添議員が、「電子入札制度の導入（行政の責任）」、「補助金のゼロベースからの見直し（住民の責任）」、「発案からの情報公開と政策立案からの住民参加（「依存と分配」の関係から「責任と信頼」の関係への入れ替え）」の3つに絞りこんだのは、公示から5日目。選挙事務所の参加者一同が、それぞれ一人の有権者として、その公約を理解し、承認して、マイクを通し受話器を通し市民に選択を問う終盤戦に突入した。

電話での反応は「堀添事務所ですが…」では不審トーンに落ちることなく、3つの公約にまで話が及ぶと、最後に名前を再確認する人など期待感が受話器を通して返ってくるようになった。「本物の改革を目指す堀添候補」の商品価値が確立するに従い「松沢候補と共に…」を付け加えるのを忘れることもある状態で最終日を終えた。

選挙結果は、5435票と4年前の3倍強の得票となった。松沢知事との同日選という有利な条件が、「政治文化を入れ替えることに挑戦する堀添」という人格を有権者の頭に入れてもらうことで、確実に票に結びついたのだと思う。試行錯誤の繰り返しではあったが。

そして、「政治文化」の入れ替え（公約）を一日一日、具体的に果たしていく4年間は4月13日から始まった。このメッセージ集と堀添議員の駅立ちによる選挙戦と公約実現プロセスの公開、5月25日の公開演説会の開催、市議会開会（6月）に向けての皆さんとの意見交換の場の設定。まず、5435票を投じた一人一人の顔が見える代表になることを、堀添チームで始める。その関係を「依存と分配」の関係でなく「責任と信頼」の関係で創り発展させるならば、5435票の代表は川崎市民128万の代表となる。

表題は、私が今回の川崎市議選で堀添議員及びスタッフと共に選挙戦を戦って得た確信である。この「政治文化」の入れ替え戦の継続が、主権者国民による政権交代、地域主権の確立につながって行くだろう。

「仲間として」議員を育てて行く主権者としての責任の自覚

K. H (メーカー勤務)

堀添さんの選挙を共に戦って、当選の速報を聞いたときは、「やったー」と思った。選挙戦では電話掛けをうけもって、まったく見知らぬ人に川崎の赤字財政の現状と解決の方向として2つの点（1、電子入札制度の導入。2、補助金の0ベースからの見直し）を訴えていって、手応えを感じた。神奈川県知事の松沢氏のマニフェストが一部100円で選挙中売れたという話と重なるが、具体的な数字を示し、具体的な解決方法を示すことに、確実に反応する有権者がいる手応えであった。

当選後、堀添さんに「お任せ」ではなく、自分自身も電話かけで訴えたことを実現していくために、今後も堀添さんと共に地に足のついた活動をやっていく。是非、変えたいと思っているあなた。一緒にやっていきませんか。

選挙にかかわっての感想

T. Y (イラストレーター)

出会いというものは突然現れるというもので、わたしと堀添市議との出会いは溝の口でたまたまゲーム機を買いにいった帰りに偶然、堀添候補（当時）の道端演説の場所に遭遇したことにはじまります。

候補の所属の党のファンであったこともあるのですが、それ以上に候補の熱弁されている現在の川崎市の財政についてとても感銘を受けました。その日の夜にわざわざお電話まで頂いてしまいまして、これは絶対に運命だ！応援しよう！と心に決めた訳です。

あまり長時間はお手伝いできませんでしたが、今回の統一地方選挙を通じて人生の勉強にもなりました。みなさんの熱意とみなさんの力をお借りして政治を変えていくことはなんと素晴らしいのかと改めて実感しました。この突然から生まれた経験は一生の宝物となると思います。

堀添選挙に参加して

H. Y (福祉ワーカー)

始めはMKさんに誘われて堀添氏を訪問したが、堀添氏と、阿部市長の行財政改革プラン、その後出された来年度予算について話し、予算での改革への切り込みが足りない、市長の行財政改革をもっと後押ししなくてはならないという点に賛同し、選挙の応援をしたいと思った。普通の人々が政治に関わって行く動機というものを自分で実感した。

行財政改革については思いは同じだったが、他の公約として、自分では考えたことも無かった川崎市行政機能の高津区への移転と、私は反対だった地下鉄推進があった。それについて始めの段階で話ができただけで自分としては良かった。

行政改革が、言うは易く実際には非常に難しいことを少し実感した。自分が現状維持派のような考え方をしていることが分かったため。実際に既得権を失う人の抵抗、そうでなくとも普通の人々の意識の抵抗を打ち破って再構築するには、市役所移転するくらいの覚悟で取り組まなければできないということ。

地下鉄についても、交通不便地域の状況を知らず、地下鉄の計画についても知らず、自分が鉄道の便利な地域に住んでいて、ただ財政問題だけ考えて反対していることに気がついた。公共交通の適切な整備は環境面からは良いことである。環境、財政、地域の発展など総合的に考えて判断すべき問題であることに気がついたことが良かった。

実際に私が参加した選挙活動はほんの一部で、ハガキの宛名書きと整理、辻立ちでのビラ配りを1回、宣伝車に乗ること1回、あとは電話かけである。

それでも、市政が生活に密着した一番身近な政治であることを、町の人々の言葉、電話で聞いた話から実感した。割合としては一部だが新しい政治をおおいに求めている人もいた。電話で話すことが自分にとって、人と意見交換し説得する訓練になったと思う。でもまだまだと思うのは、活動の感想を言うことができても、その次に何をどのようにすべきか考え出せないこと。イラク戦争の問題についても、堀添氏の考えに対し、それは間違っているのではないかと反論できたら良かったが、まだまだである。

当選して良かった！の一言。私もここで終りにするのではなく、堀添氏が公約をしっかりと実現するかどうか見ていきたい、政策チームにできるだけ参加しようと思った。

第1回 川崎市政に参加する会(仮称)のご案内

私たちの住む川崎市を「安心して暮らせるまち」にしていくためには、私たちの手でもっともっと変えていかなければならないと思います。

一人一人の主権者の皆様とともに、新しい川崎市のあり方について、勉強し、議論し、実行していく場として、「川崎市政に参加する会」(仮称)を開催してまいります。

5月31日の第1回は、統一地方選挙の結果を踏まえ、川崎市の課題について全体的な視点でみてみたいと考えています。

皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。

テーマ：「川崎市政の現在と課題」

日時：2003年5月31日(土)
午後2時半から4時半まで。

場所：てくのかわさき

溝の口駅徒歩5分

溝口1-6-10 044-812-1090
(マルイの先です。神奈川県合同庁舎隣)



新事務所のご案内

(6月10日より開設致します)

新しく事務所を開設致しました。溝の口駅徒歩2分、高津区役所隣のビルです。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

〒213-0033

川崎市高津区下作延266番地

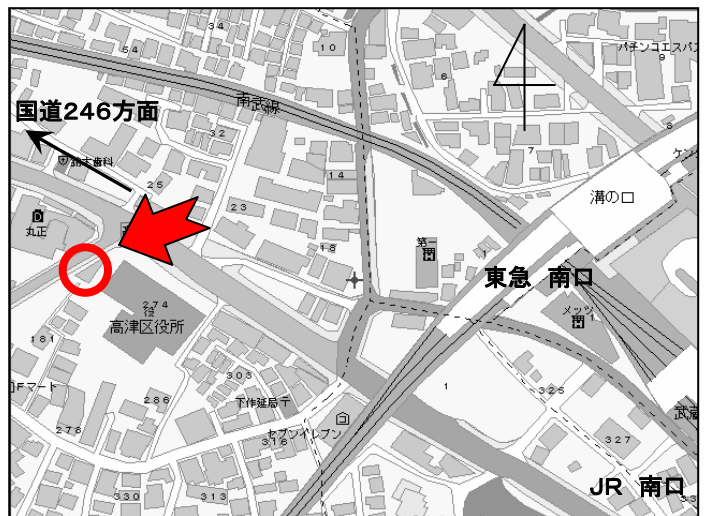
エスビル4階

電話：044-855-1479

FAX：044-855-1489

電子メール：horiken@horizoe.com

Web：http://www.horizoe.com



自宅です。きたまセールの電話を受けることがある。こちらの都合はおかまいなしに、一方的に質問をたたくみかけてくるものが多。それが話をつなぐ有効な手法なのだろうが、かなり不愉快だ。/今回の選挙では、自分が電話をかける側になった。最初は相手の都合を聞かなければと「今、1、2分ほどお話ししてもいいですか」と断つて、しかし「時間ありません」との返事ばかりで、すぐ切られてしまう。「名前を言うだけならいい」と言われたこともあった。これでは、いけない。選挙は政治のリーダーを選ぶ機会なのだから、緊急なことがない限り、政策を聞くことを優先してもらわねばならない。摩擦を恐れて、正しいと思うことを主張できない自分も変えなくては。そう方針転換して、はじめから政策を訴えるようにした。アドバイスで、自分が一方的に説明するのはなく、市の財政状況や候補者の政策について、有権者の意見も聞くようにした。すぐに切ってしまう人より、話を聞いてくれる人が多くなり、さらに何人かはかなり長時間、自分の意見を語ってくれた。その結果には正直驚いた。有権者の中には、政治について考えている人は確実にいて、それを引き出すのは、政治家とそのサポーターの働きかけ次第なのだ。もっとも、意見を持つている人でも、「政治は政治家がするもの。あなたたちががんばって」という人もまだ多い。そうした人々が、自分も主体的に政治に参加すべきだし、参加が可能なだと思えるような仕組みがどうしても必要だ。議員にとっては、「私に何でも任せ」という請負のほうがかたがたの時代、もうそれではやってはいけぬ時代、縁血縁に頼るのではなく、政策を闘わせる選挙が当たり前になり、市民一人一人が、政治に関わり前になる時代。自分たちが政治を変え、世の中を変えることができる時代。困難でも、夢のある時代が始まりつつあると思う。/本ニュースも、新しい時代を創造するために少しでも役立てばと考え発刊致しました。読まれてのご感想は、お聴かせください。ぜひ事務局までご意見を

(事務局ゆ)